

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

表裏双解剂 解表攻裏剂 1

こうぼくしちもつとう  
厚朴 七物湯

解肌發表・行気通便

厚朴 9g・甘草 3g・大黃・枳実・桂枝各 6g・大棗 4g・生姜 9g  
(小承気湯合桂枝去芍薬湯) に相当する。  
水煎し服用する。

金匱要略

<病機>

表寒裏実

腹満、便秘、発熱、悪風、脈が浮数などを呈す。

<病機>

風寒表証が消失しないうちに裏実が生じ、裏実が主体になった状態である。

発熱、悪風、脈が浮は風寒表証を、腹満、便秘、脈が数は裏実熱、気滞を表わす。

<方意>

行気導滯、消痞泄満を主とし、解肌發表を補助とする。

消痞泄満の厚朴・枳実を大量に用い、清熱瀉下の大黃を加え、行気通便して裏実熱、気滞を除く。桂枝・生姜・大棗・甘草は、解肌散寒、調和營衛に働き、表邪を解散する。

<参考>

加減法

胃気上逆による嘔吐には、半夏を加える。

下痢するときには、大黃を除く。

表寒が強ければ、生姜を増量する。

本方(厚朴七物湯)は、小承気湯と桂枝去芍薬湯の合方に相当する。

本方(厚朴七物湯)は厚朴・枳実が主体で大黃は少量であり、小承気湯は大黃が主体で、厚朴・枳実は少量であり、病態に応じて重点が異なっている。